

「地図から読み解く自然災害と防災（減災）」酒井多加志 著 追 補

令和元年 7月
近代消防社編集局

本書の9頁に追補してご活用ください。

(5) 過去の自然災害に関係する地図記号

■ 自然災害伝承碑

2019（令和元）年9月より、これまでの記念碑の記号とは別に、過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害状況など）が記載されている石碑やモニュメントを示す自然災害伝承碑が、2万5千分の1地形図に掲載されることになりました。



記号 19



図 19 の 2



写真 15 の 2

小屋浦地区の水害碑
(2019年6月撮影)

新地図記号が誕生するきっかけとなった石碑が、広島県安芸郡坂町小屋浦地区にあります。同地区は、2018（平成30）年7月の西日本を中心とした豪雨で大きな被害を受け、土石流などによって直後に16人が犠牲になりました。

この石碑は、1907（明治40）年7月に大雨で土石流が発生し、44人が亡くなったこと、突然のことで逃げる暇がなく被害が拡大したことを伝えています。

過去の災害の教訓を伝える石碑のそばで、16人の命が再び失われることになってしまったのです。被災直後に地元の人が語った後悔の念は重いものでした。

正 誤

本書に次のとおり、印刷の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

頁	誤	正
17頁 上から8行目	図16のa-b	図20のa-b
38頁 下から16行目	ファザード	ファサード
60頁 写真104の説明	二十間坂	八幡坂
71頁 下から3行目	1954年	1754年
108頁 下段の右の写真	現在、「釧路シーサイドビル」は津波避難ビルではありません。	